

建材 マンズリー

No.587 **9** SEPTEMBER
2014

特集

「健康寿命」をサポートする “早めのリフォーム”

好木心

日本初の木製コースター 「ジュピター」

注目企業を訪ねる

泉橋酒造株式会社



～わが家でずっと暮らしたい～ 「健康寿命」をサポートする “早めのリフォーム”

世界一の長寿国である日本は、リタイア後の高齢期が20～30年と長い。
自宅が老後の生活の中心となり、住み慣れた自宅であらゆる生活の中心となるためには、
いつまでも元気で健康に暮らし続けるためには、
行動(Doing)の妨げを解消することはもちろん、心地よく快適に居られること(Being)も重要だ。
「健康寿命」をサポートし、充実させるという視点で住まいを見直せば、
住み手がより満足できるリフォーム提案が可能となる。
そこで、加齢に伴う身体機能の変化に配慮し、
人や社会との関わりを絶やさず住空間について考察する。



* 健康寿命：世界保健機関（WHO）が2000年に提唱した指標。日常的に介護を必要としないで自立した生活ができる期間。平均寿命から介護期間を差し引いたもの。



写真：住友林業ホームテックのリフォーム例（福岡県のK様邸） ※ 詳細はP.6をご覧ください

機能的なバリアフリーはごく当たり前のことになりつつありますが、さらに今後は「五感のバリアフリー」が求められるかと思えます。これは、家にいるだけで住む人の心と体を快適で心地よくする、いわば存在のため（Being）のバリアフリーです。例えば、床・壁・天井などの内装仕上げ材

には、どのような材料を選ぶかといったことです。「木の素材は触ると気持ちが良い」という感覚はとても重要で、視覚や触覚、嗅覚などに心地よさを与える材料の吟味が、これからいつそう求められるでしょう。自然素材が持つ可能性が再評価されていくと思えます。

が望まれます。そして、このリフォームは、リタイア後も快適な生活のリズムが刻める、居心地のよい空間作りでもあります。できれば経済的にも体力的にもゆとりのある55歳くらいからの準備をお勧めします。

老後のためのリフォームは50歳代からの対応がおすすめ
高齢者を健康で快適に過ごすには、住まいの充実が必要不可欠です。寒い浴室や小さな段差などは重大な病気やケガを招くおそれがあるため、それらを防止するためのリフォーム

少子高齢化時代は、新築住宅が減り、住宅関連業界にとっても厳しい環境となりますが、これはいくらかでもチャンスに変えることができます。バリアフリー化されていない築20年以上の住宅に多くの高齢者が住んでいるのです。この大きな市場をきちんと捉え、自然素材の建材を新しいバリアフリーの主役にするなど、「高齢期対応」の住まいづくりには住宅関連業界の出番がたくさんあると思えます。（談）

図1. 高齢者（65歳以上）のいる世帯の推移- 全国（1983年～2013年）

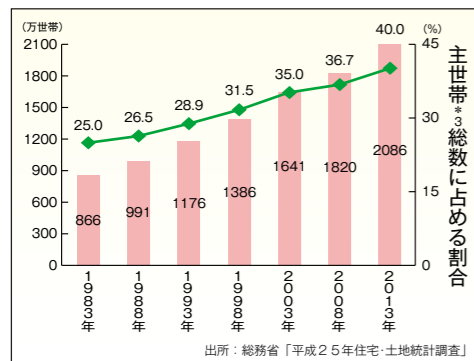
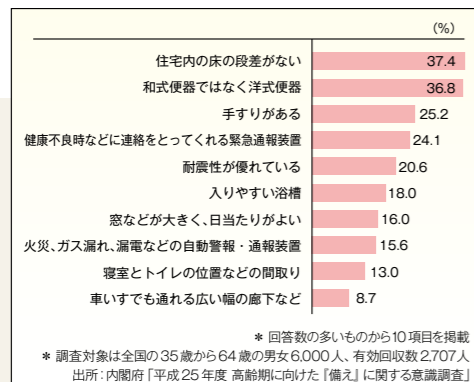


図2. 高齢期に住みたい住宅の設備などへの重視点（複数回答）



*3: 1住宅に1世帯が住んでいる場合はその世帯を「主世帯」、1住宅に2世帯以上住んでいる場合にはそのうちの主な世帯（家の持ち主や借り主の世帯など）を「主世帯」という（総務省統計局）

現在日本では、4人に1人が65歳以上の高齢者です。世帯数で見ると、高齢者のいる世帯の割合はもっと高くなり、日本全国の世帯の4割は高齢者がいる状況です（図1）*1。さらに持ち家の場合は約5割となり、2軒に1軒が高齢者の暮らす住宅です。「高齢期対応」の住まいづくりが重要なのは、この凄まじい高齢化にあります。また最近、「健康寿命」という言葉をよく耳にします。これは、介護を必要とせず健康でいられる期間のことをいいます。日本人の平均寿命は男女とも80歳を超え世界一ですが*2、平均寿命から健康寿命を引いた老・病の

期間は結構長いのです。「老後ではできる限り健康で自分らしく暮らしたい」。老後の暮らしの中心となる住まいは、この健康寿命を維持し、サポートする役割も持っています。そのひとつが住宅の「バリアフリー化」といえます。

今後のバリアフリーは『五感』を心地よくする素材で

住宅のバリアフリーといえば、出入り口の段差の解消、トイレに手摺りをつけるなどが思い浮かびます。つまり人の行動(Doing)を保障するためにはバリア(障壁)を取り除くことです。住宅では20年ほど前から少しずつその手法が取り入れられてきましたが、築20年を超える住宅では、設計上も設備選択でもバリアフリーが考えられていないので、特に本格的なバリアフリーの実施が勧められます。

現在では、もはや段差の解消など

*1: 高齢者のいる世帯が2086万世帯で世帯全体の4割に達した。「平成25年住宅・土地統計調査」
*2: 2013年の日本人の平均寿命は男性80.21歳、女性86.61歳。厚生労働省「簡易生命表」

全国の世帯の4割に 高齢者が暮らす時代



明治大学理工学部建築学科教授
園田眞理子氏

いつまでも元気で健康に暮らすための住まいの工夫

「わが家でずっと暮らしたい」を応援する建材・設備

老後もわが家で快適に暮らすには、少し先の身体状況や生活リズムの変化を見つめた住まいづくりが必要だ。使い勝手のよい設備や安全で快適な空間は、将来の安心・安全を保証するだけでなく、現在の暮らしも便利にする。特別なことではなく少しの工夫でできる、高齢期対応リフォームのポイントをまとめた。

使い勝手のよい機能的な「キッチン」

料理づくりは、家族のコミュニケーションやお客様へのおもてなしとなるものだが、キッチンの使い勝手が悪ければストレスとなる。調理から後片付けまで毎日が楽になる工夫が必要だ。座ったまま使える流し台や取り出しやすい収納などが家事をサポートしてくれる。



④ ボタン一つで昇降する電動収納



⑤ 掃除しやすいレンジフード



⑥ 高機能なキッチン水栓(タッチレス、フットスイッチなど)



① 顔が見える対面キッチン



② 座ったまま調理できるキッチン



③ 一緒に調理できるスペース

外出が楽になる「玄関」

玄関は外と内をつなぐ大切な空間。使いづらいと外出が億劫になり、家に閉じこもりがちになる。上がり框の段差を低くしたり、手摺りやベンチを設けることで外出がしやすくなり、健康にもプラスの効果も期待できる。玄関はできれば余裕のある広さの確保を。



① 段差の小さい上がり框



② 靴の脱ぎ履きを楽にする玄関ベンチ



③ 昇降をサポートする玄関手摺り



④ 段差が少ない引き戸

⑤ 余裕のある広いスペース

⑥ 滑りにくいポーチタイル

安全・快適な「浴室・トイレ」

高齢者の事故が多い浴室は、滑りにくい床、またぎやすい浴槽、ヒートショックを防ぐ温熱環境など、安全への備えが必須だ。トイレは身体の保持やゆとりのあるスペースなどを確保し、使いやすく手入れしやすい快適な場所とする。



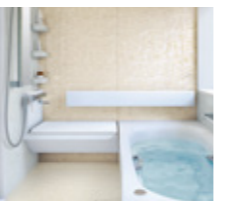
① 濡れても滑りにくい浴室床材
手入れが簡単な排水口



② 段差のない開口幅の広い引き戸



③ 浴室を温める浴室暖房機器



④ 休憩や浴槽の出入りをサポートするベンチ
カウンター



⑤ 安全をサポートする浴槽用手摺り



⑥ 寒さをシャットダウンする断熱窓

⑦ またぎやすく、滑りにくい浴槽



⑧ 全開口できるドア付のトイレ



⑨ 身体を支えるアームレスト



⑩ 消臭機能のある内装材



⑪ 広さを確保するタンクレストイレ

人が集まる「リビング・ダイニング」

家族が集う場であると共に、来客をもてなすリビング・ダイニング。人とのコミュニケーションをとることも健康維持に大切だ。いつでも気軽に集まってもらえるよう、居心地のよい空間づくりを。靴を脱がずに交流のできる縁側やデッキテラスの活用もお勧めだ。



① 傷つきにくく、汚れが付着しにくい床材



② 段差のないノンレールサッシ
でデッキテラスをリビングに



④ 収納ですっきりとしたリビングに

⑤ 人が集まれる圧迫感のない
広々空間(吹き抜けなど)



③ 段差がなく開閉がスムーズな
上吊り引き戸



⑥ ちょっと腰かけられるリビングの畳
コーナー

毎日心豊かに過ごせる 快適な住まいに

—住友林業ホームテックの戸建てリフォーム実例

ウォールナットの床材など
心地よい素材を使用

福岡県のK様邸は築50年の木造戸建て住宅。来客が多いので、お客様が心からくつろげる家になりたいという施主の希望に添ってリフォームを

行った。広縁付の8畳和室を、庭の縁を取り込んだ広々と開放感のある玄関ホールにつくり変えた。和室を改修して広げたりリビングの横には畳コーナーを設け、家事の合間に趣味の書道を楽しめるようにした。趣味のコーナーができたことで、

毎日が心豊かに過ごせているという。床には無垢のウォールナットを使用。お気に入りのテーブルセットと調和の取れる色調を選んだ。ダイニングから外を眺めれば、広々としたデッキ越しに庭の木々の様子が見える。内装仕上げ材が視覚や嗅覚、触覚などに与える影響は大きく、K様邸では床材など心地よい素材選びが行われている。

今取り組んでいる主なテーマは、住宅メーカーとして家庭内の事故をいかに防ぐかということです。その成果のひとつが、キッズデザイン賞をいただいた壁角のアーチ形状化です。ぶつかってもけがをしにくい角の形状を実験で検証し、家具や扉、キッチンカウンターなどへも応用を進めています。

万一転んでも重大なケガに至らず、また歩いた時や立ち仕事でも疲れにくい床のかたさも研究テーマのひとつです。表面の仕上げ材の工夫だけでなく、どのような床梁がよいかなど、構造全体から床のかたさを捉え、技術的な最適化を検証しています。

バリアフリーに関していえば、住宅内のバリアフリーが進む一方で、門から玄関までのアプローチなど外回りのバリアフリーは意外と進んでいないのが現状です。高齢期は外に出るきっかけも大切なので、手摺りをつけたり緩やかな階段にして外出しやすくするなど、いろいろ工夫すべき点があります。また、今後は浴室やトイレなどでの不慮の事故を迅速に察知する研究などにも取り組んでいきたいと思っています。

これからの バリアフリー開発



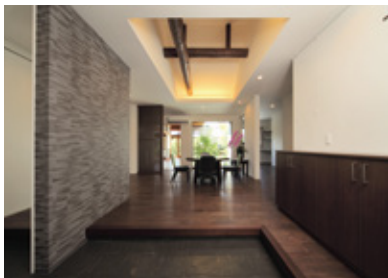
住友林業筑波研究所
建築住まいグループ
主任研究員
のぶたか
磯田信賢



before



after



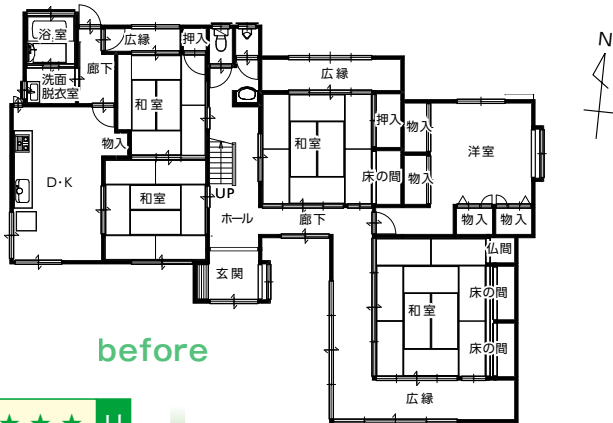
② リビング・ダイニング



before



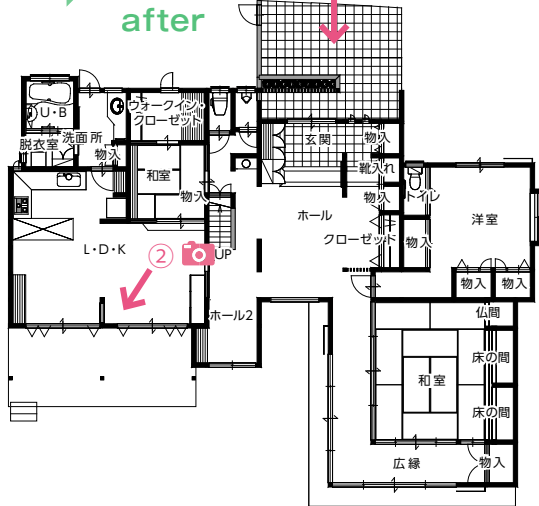
after



before



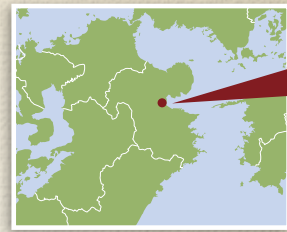
after



リフォームのポイント

- ★ 壁を撤去し、広々としたリビングダイニングの空間を創出
- ★ リビング横に畳コーナーを設け、趣味のスペースに
- ★ 床は無垢材で心地よく感じる工夫

日本初の 木製コースター 「ジュピター」



大分県
別府市



写真=近藤さくら

取材協力、右の写真 = 株式会社城島高原オペレーションズ



走路層材を交換中

大 分県別府市城島高原。西に由布院温泉、東に別府港を擁し、「阿蘇くじゅう国立公園」の一部に指定されている。

1992年7月21日、日本初の木製コースター「ジュピター」は城島高原パークで誕生した。自然豊かな環境であることから、木製が導入された。走路全長1600メートル、最大斜度45度、最高時速91.1キロメートル。地上42メートルの高さまで巻き上げられた後、コースターは滑り出す。

支持構造体は木材だけで組み上げる。約6万本の米国产サザンイエローパインの無垢材を使用。硬くて強度があり、釘や締め金具が抜けにくいこと、保存薬剤が均一に浸透するので耐久性にも優れていることから採用された。ボルトは18万本、釘は100万本にもなる。基礎は布基礎で、長さ7メートルの鋼管杭を1000本打ち込んだ。

走路は鉄板とテンス材(年輪密度が高い部位)、7層の板状のパイン材を組み合わせた9層構造。特に負荷のかかる「落とし込み(コースの底の部分)」などは、重点的にメンテナンスを行う。年間のメンテナンス費用は3000万円、毎日始業前に行う目視による日常点検の他、3カ月に一度の月例点検など、入念な点検を実施している。また、木材の耐用年数は40年だが、7~8年に一度のペースでエリアを決めて全層交換も行う。

工事期間約6カ月、工事作業員は延べ約2万5000人、建設費25億円をかけて巨大なスケールで組み上げられた「ジュピター」。22年経った今もその木組みの造形美は圧巻だ。

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

泉橋酒造株式会社

“酒造りは米作りから”の信念のもと 純米酒にこだわり続ける 「栽培醸造蔵」



代表取締役
橋場友一氏

本社 ● 神奈川県老名市下今泉5-5-1
創業 ● 1857年
資本金 ● 2,000万円
従業員 ● 15名
事業内容 ● 清酒、リキュール、米麹みそ、米などの製造・販売

酒蔵のあるべき姿に立ち返り
地元の米農家と連携

「旨い日本酒造りのため、原料となる米を自らの手で育てている酒蔵がある。神奈川県老名市で、江戸時代・安政年間から創業している泉橋酒造株式会社は、日本酒造りの現場がいつの間にか遠ざかってしまった。酒造りは米作りから、という基本に立ち返り、手造りの酒を世に送り出し続けている。」

「良い酒は良い米がなければ造ることができませんから、酒蔵が米作りから携わること何ら不思議はありません。ところが、日本には戦時中から50年以上の間、法律で米の流通には厳しい規制がかけられており、酒蔵が米を作り、それを

復活や栽培面積の増加となるため協力してくれました。地元の田園風景も守られ、農業環境の保全にも役立つことができています。さらに自社で米を作ること、酒蔵にとっても原料調達での面でのリスクヘッジに役立っています。」

世界からも注目される日本酒を
基本に忠実に造り続けたい

「米作りから酒造りを一貫して行う「栽培醸造蔵」としての誇りを持つ同社。農家ごと、田んぼごとに特徴を見極め、日本酒へと醸していくための精米もすべて自社で行い、酒米の品質管理にも絶対の自信を持っている。ここまで徹底的にこだわる背景には、日本酒の製法に対する強い危機感があるという。」

「今、若者のアルコール離れが言われますが、実はビールもワインも焼酎も、そこそこ飲まれていて、日本酒だけがひとり負けなんです。その理由は実にシンプルで、美味しくないからです。醸造アルコール添加、いわゆる「アル添加」は主にサトウキビの搾りかすから作られるのですが、私はこれが日本酒を不味く感じる要因のひとつではないかと考えています。」

「同社の商品は、米と麹のみで作られる純米酒である。とはいえ、かつてはア

ここが注目ポイント

米作りから手がけるこだわりが
ブランドカアップに

米作りで原料安定供給と同時に
農業環境保全

原点回帰でラインアップを整理し
“売りたい商品”に集約



地元農家と話しながら米作りを行う



さわやかな香りと濃潤な旨みの
特撰 純米大吟醸 山鹿仕込み



とんぼラベル
純米生原酒 (季節限定商品)



恵 赤ラベル
純米原酒辛口



恵 青ラベル
純米吟醸



もろみを丁寧に確認していく

自ら使って酒造りを行うことができず
なりました。この法律が1995年に廃止
されたことで、私たちはようやく米作り
から酒造りを行うという、本来あるべき
姿に戻れたんです。」

「日本ではまだ数少ない、自社栽培と
契約栽培で米作りを進める同社では、
1997年から地元の米農家を中心とし
た「さがみ酒米研究会」を組織している。
旨い酒造りに適した酒米栽培や、土壌作
りについて学ぶためだ。」

「旨い酒を造るためのよい米作りの肝
は、土壌作りと農薬を使わないこと、そ
してちょうどよい精米を行うための整粒
歩合※の向上があると私は考えています。
しかし、農家さん次第でこれらの要素は
大きく左右される。だからこそ、地元の
顔の見える環境のもと、農家さん対話
しながら進める米作りが、泉橋酒造の酒
造りになくてはならないものなのです。
しかし、酒米は食用の米とは異なり、稲
穂の丈が長く垂れやすくなったり、田ん
ぼの面積あたりの収穫量が減るため、品
質の良い酒米作りは一筋縄ではいきませ
ん。それでも、うちと新たな酒米作りを
始めてくれた農家さんたちは、休耕田の

ル添を行った酒も造っていたという。し
かし、橋場氏が6代目を継いでから、そ
れらを整理していったそうです。」

「純米酒以外をほとんど製造中止にし
て、売上げが厳しくなった時期もありま
した。自分が旨いと思う純米酒だけを残
し、かなりシビアに整理しましたから、い
ろいろと反発もありました。しかし、今で
は売上げは上がっています。土壌作りか
らこだわった酒米を使い、機械化されるこ
とも多くなった麹造りも手作業で行って、
品質と手造りにこだわっています。このよ
うに、こだわりを持って造られた旨い酒
が、消費者に支持していただけたんです。」

「甘くてフルーティな味わいが潮流の
日本酒の中で、同社の日本酒は辛口かつ
旨味が濃く、軽快な飲み口が特徴だ。」

「私は、食事を活かす酒を造りたいんで
す。主張が強くて甘すぎる酒ではなく、飲
み飽きることなく、いつも食事と共にある
ような。和食が世界遺産に登録されたこ
とで日本酒にも注目が集まり、海外でも日
本酒が造られ始めています。本家本元の日
本は、米と麹だけの酒を造っていると堂々
と言えなければいけません。そのために
も、日本の酒蔵は基本を守りつつオリジナ
リティを持ち、酒造りと向き合うべきとき
にきていると思いますよ。」

※ 整粒歩合=一定量の玄米の中に存在する整粒(きちんと整った形をしている米粒)の割合

「CLT」等新たな製品・技術の開発・普及に予算要求 — 農林水産省「平成27年度予算概算要求」

農林水産省は「平成27年度予算概算要求」において国産材利用拡大と安定供給体制の構築等を図るため、「新たな木材需要創出総合プロジェクト」に30億6600万円の予算を要求。うち「CLT(直交集成板)等新たな製品・技術の開発・普及」については、10億8600万円の予算を求めた。

(1) CLTに関する建築基準の整備等の促進

強度データ、長期挙動データ、接合部データの収集、CLT施工マニュアル等の整備。

(2) 中高層建築物等に係る技術開発等の促進

CLT建築等の施工性等のデータ収集に必要な新たな製品・技術を用いた建築物の実証。CLT等の新たな製品に対応した加工機械の開発・普及。木質耐火部材の開発、大径化したスギ等の利用

拡大に向けた住宅分野等における新たな製品・技術の開発。

(3) 木材を利用した建築物の建設に携わる担い手の育成等の促進

中高層建築物等への木材利用促進のため、木材を利用した建築物に携わる設計者等の担い手を育成。木造建築物等の健康・省エネ性の定量化に向けた調査。

その他、CLTを用いた建築物の一般的な設計法を確立するための研究開発を国土交通省と連携して実施。

また、森林の整備・保全、林業・木材産業の健全な発展と木材利用推進のため、「森林・林業再生基盤づくり交付金」(50億円)を要求。木材利用拡大に資する施設の整備や、CLT等新たな製品の安定供給に必要な木材加工流通施設整備などを支援する。補助率は今後決定する。

インドネシア住友林業がトクラス社製浄水器の インドネシアでの総販売代理店に

インドネシア住友林業は、トクラス株式会社のインドネシアにおける浄水器事業への進出にともない、同社と総販売代理店契約を締結し、現地への輸入および製品販売を開始した。取り扱い製品は ①戸建て住宅やマンションの給水配管に直接取り付け、浴室やキッチン、洗面台など、家中の水を“きれいな水”にするセントラル浄水器 ②飲用水用として①と併用する水栓取付型浄水器など。

中間所得層の増加や生活様式の西欧化・日本化が進むインドネシアでは、今後飲用水に加え生活用水全般にわたり、“きれいで安心できる水”の需要が見込まれている。水道インフラの発展途上にあるインドネシアにおいて、住友林業グループがインドネシア国内で培っ

てきた販売・流通ネットワークと、トクラス社の日本で蓄積してきた家庭用浄水器の技術を活かし、これまでにない製品の提供を通じて独自のビジネスモデルの確立を目指していく。

セントラル浄水器 TW300

幅 748mm
奥行 333mm
高さ 893mm (最大)



編集室より

広告掲載・誌面に対するご意見、ご感想は
建材マンズリー編集室専用アドレスまでお寄せください。

kenzai-monthly@sfc.co.jp

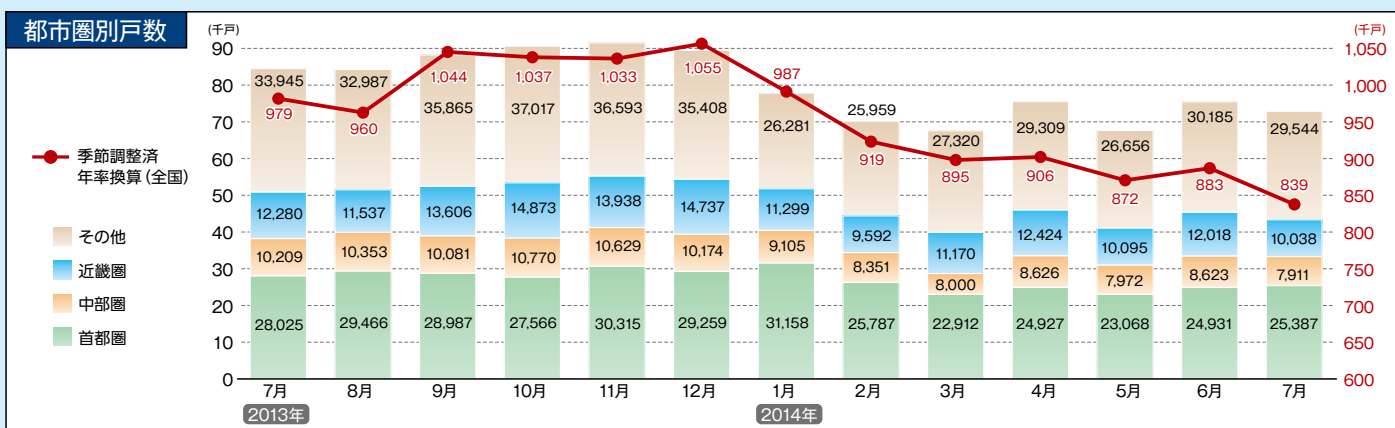
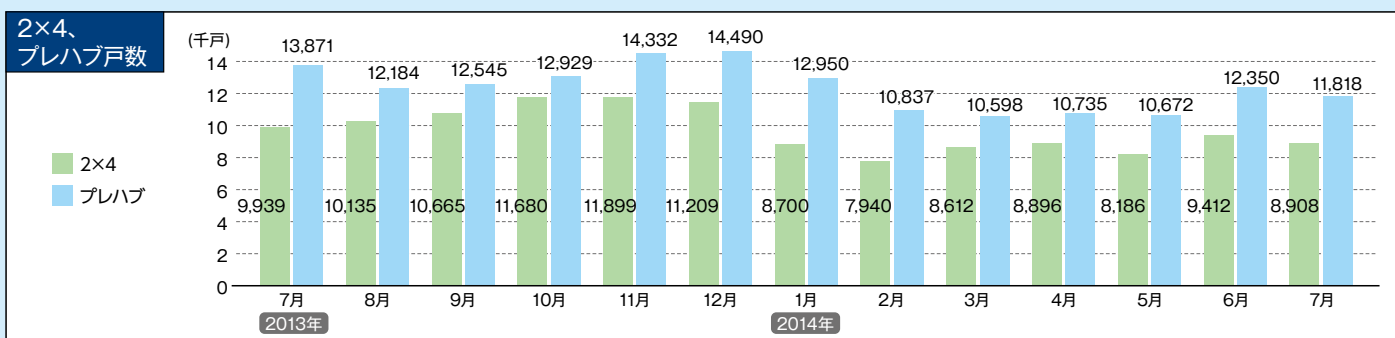
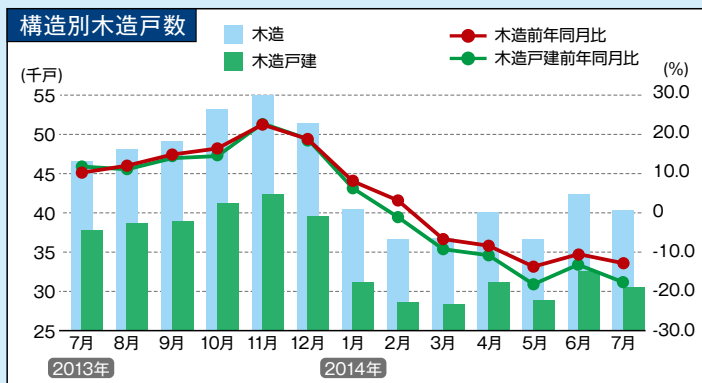
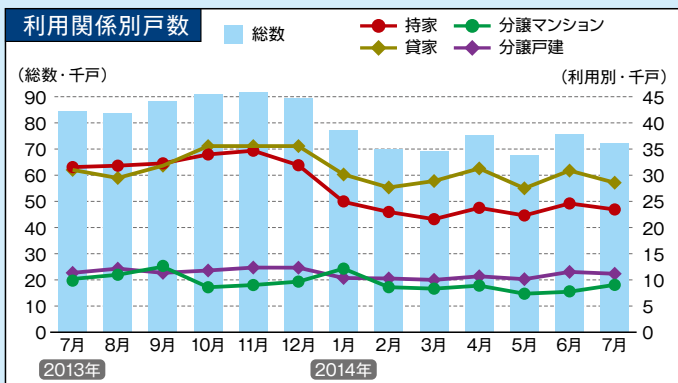
住友林業株式会社 木材建材事業本部 事業開発部

編集後記

先日、茶道具専門店の方とお話しする機会がありました。私自身は茶道には全く縁がないため初めて聞くことばかりで、床の間や入口の種類、炉の位置などなど、とても面白く伺いました。ただ最近、作法を重視するあまり敷居が高いと感じてしまうせいか、なかなか若い人が増えないとのこと。ここにも高齢化問題がありました。確かに実際に始めようと思ったら、覚悟と教養が必要そうで、興味深い半面、遠い世界に感じてしまいます。伝統文化を継承することの難しさを感じた1日でした。(S)

2014年7月の新設住宅着工戸数 △は減

		7月					6月	5月	4月
		対前月比		対前年同月比					
新設住宅計		72,880	△ 2,877	△ 3.8	△ 11,921	△ 14.1	75,757	67,791	75,286
建築主別	公共	2,049	△ 154	△ 7.0	△ 99	△ 4.6	2,203	1,691	3,033
	民間	70,831	△ 2,723	△ 3.7	△ 11,822	△ 14.3	73,554	66,100	72,253
利用関係別	持家	23,524	△ 1,340	△ 5.4	△ 7,951	△ 25.3	24,864	22,288	23,799
	貸家	28,623	△ 2,434	△ 7.8	△ 2,389	△ 7.7	31,057	27,434	31,177
	給与住宅	691	270	64.1	81	13.3	421	632	600
	分譲住宅	20,042	627	3.2	△ 1,662	△ 7.7	19,415	17,437	19,710
	うちマンション	9,011	1,257	16.2	△ 1,309	△ 12.7	7,754	7,307	8,902
	うち戸建	10,882	△ 609	△ 5.3	△ 423	△ 3.7	11,491	10,026	10,737
資金別	民間資金	64,584	△ 2,520	△ 3.8	△ 9,964	△ 13.4	67,104	60,082	65,129
	公的資金	8,296	△ 357	△ 4.1	△ 1,957	△ 19.1	8,653	7,709	10,157
	公営住宅	1,673	△ 323	△ 16.2	143	9.3	1,996	1,447	2,308
	住宅金融機構融資住宅	3,370	△ 12	△ 0.4	△ 904	△ 21.2	3,382	3,323	3,681
	都市再生機構建設住宅	124	124	-	△ 217	△ 63.6	0	123	417
	その他住宅	3,129	△ 146	△ 4.5	△ 979	△ 23.8	3,275	2,816	3,751
構造別	木造	40,631	△ 1,748	△ 4.1	△ 5,889	△ 12.7	42,379	36,983	40,035
	非木造	32,249	△ 1,129	△ 3.4	△ 6,032	△ 15.8	33,378	30,808	35,251
	鉄骨鉄筋コンクリート造	273	△ 203	△ 42.6	△ 44	△ 13.9	476	509	586
	鉄筋コンクリート造	18,759	△ 182	△ 1.0	△ 3,193	△ 14.5	18,941	18,324	22,349
	鉄骨造	13,112	△ 717	△ 5.2	△ 2,734	△ 17.3	13,829	11,777	12,205
	コンクリートブロック造	67	15	28.8	△ 16	△ 19.3	52	102	55
	その他	38	△ 42	△ 52.5	△ 45	△ 54.2	80	96	56



(出典：国土交通省ホームページ http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

新しい幸せを、わかすこと。

NORITZ

エコ＊
リラ＊
キレイ



上質な
デザイン

先進的な
操作性

広がる
調理

スマートコンロ誕生

2014年9月
発売予定

指先ひとつで炎を使える操作感



ごとくや「ツイストスイッチ」を取り外せば天面はほぼフラットで、拭き掃除がしやすい形状です。

スライドさせて点火



「ツイストスイッチ」の中央をタッチしながら上へスライドさせて点火。

回して火力調節



「ツイストスイッチ」を指先で回転させて、火力調節やタイマー設定ができます。

焼き網のないグリルで多彩な調理

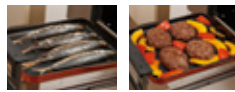


センサー付きの下火バーナーを搭載した「マルチグリル」。きめ細やかな温度管理で多彩な調理を楽しめます。

プレートパン



焼きものはもちろん、トーストやノンフライ調理など、直火を使った料理をおいしく作れます。



●魚姿焼き

キャセロール(フタつき)



炊飯や煮物、蒸しものやパンなどをグリルで調理できるようになりました。



●ポトフ

●シューマイ

スマートフォンと連動



専用アプリをスマートフォンにダウンロードして、100種以上のレシピから最適な設定をコンロに送信できます。

※ご使用には無線LANルーターとの接続が必要です。

株式会社 **ノーリツ**

商品についてのお問い合わせは… 電話料金無料 **0120-911-026**

本社 / 〒650-0033 神戸市中央区江戸町93(栄光ビル) <http://www.noritz.co.jp>



建材マンスリー
NO.587
SEPTEMBER
2014

9

昭和39年8月創刊 第51巻 平成26年9月1日発行 (毎月1日発行)
発行人/楠木孝範 発行所/建材マンスリー編集室 〒100-8270
住友林業株式会社 木材建材事業本部 事業開発部

通巻587号 東京都千代田区大手町1-3-2 (経団連会館)

TEL 03-3214-3280 FAX 03-3214-3282